

平成30年度 白鳩チルドレンセンター南丘事業報告書

1. 概要

①運営報告

- 本年度は、地震・台風の自然災害による影響を受け、更に猛暑に苦しめられた年となりました。特に9月の台風21号は建物の損壊をもたらし、電気・ガス供給の停止により3日間の休園を余儀なくされましたが、幸いにも園児・職員に怪我はありませんでした。災害の経験を活かし、緊急時の保護者との連絡方法の改善や、災害備蓄品の見直しなどを行いました。また、熱中症対策について共通理解を深めることができました。
- 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容について全職員で学習し、アクティブラーニング、ドキュメンテーションなどの新しい方法についても学ぶ1年でした。
しかし、今年度は内容の読み合わせを行い、話し合いの機会を持つことはできましたが、具体的な保育実践としては学びを活かしきることができませんでした。今後とも教育・保育の向上に向けてそれぞれの課題に取り組んでゆきます。
- 豊中市では本年も新園の認可がとどまらず、民間保育園18園、小規模保育所14園
幼保連携型認定こども園1園 合計33園増となり、既存園とあわせると100園を超える厳しい環境となりました。それに加え保育教諭不足が深刻で人材確保が急務となってきています。このような環境の中、利用者に安心・安全・信頼ある園との認知をゆるぎないものとする上においても、より一層の職員のスキルアップを図ってまいります。

②定員 160名（定数外25名） 合計185名
1号認定児 2名 2号認定児113名 3号認定児70名

③事業日数 292日（日曜・祝日及び12/29～1/3は休園します。）

④開園時間 平日・土曜 7:00～19:00

⑤保育時間

★2号・3号認定児

平日

標準時間保育 7:00～18:00
短時間保育 9:00～17:00
延長保育 18:00～19:00

土曜

標準時間保育 7:00～18:00
短時間保育 9:00～17:00
延長保育 18:00～19:00

★1号認定児

平日 早朝保育 7:00～9:00
通常保育 9:00～14:00
預かり保育 14:00～19:00

⑥職員数

園長 1 名、主幹保育教諭 2 名、保育教諭 33 名（うち非常勤保育教諭 5 名）
看護師 1 名、教育・保育補助 2 名（パート職員）、園務員 1 名、
給食委託事業者からの派遣栄養士 1 名、派遣調理員 3 名、学校医 1 名、学校歯科医 1 名
学校眼科医 1 名、学校耳鼻咽喉科医 1 名、薬剤師 1 名（年間 6 回環境衛生検査）

2. 教育・保育運営

①教育・保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、励まし合い、学び合う子ども社会の中で成長する事が望ましいと考えます。
- 私たちは子どもの個性・人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

②教育・保育方針

- 社会福祉法人白鳩会保育メソッド・一日の保育の流れを中心に、子どもたちが主体的に生き生きと生活・活動できる環境を整え、自己を十分発揮し人として「生きる力」を育む。
- 在園児および地域の子育ての支援を行う。
- 愛着関係を確立させ、子どもとの継続的な信頼関係を築く。

③教育・保育目標

- 乳児期の愛着関係を基盤とし、認知能力（記憶、計算、判断、決定、言語理解など）と非認知能力（意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、思いやり、自己肯定感）を育む。

④クラス編成及び職員配置

0 歳児	ひよこ組	15 名	保育教諭	5 名
1 歳児	りす組	25 名	保育教諭	5 名
2 歳児	うさぎ組	30 名	保育教諭	5 名
3 歳児	くま組	35 名	保育教諭	4 名
4 歳児	ぞう組	39 名	保育教諭	4 名（うち障害児加配保育教諭 1 名）
5 歳児	きりん組	41 名（1 号 2 名）	保育教諭	4 名（うち障害児加配保育教諭 1 名）
合計園児数		185 名（1 号 2 名）	保育教諭	27 名
一時保育担当保育教諭				1 名
地域子育て担当保育教諭				2 名（うちパート職員 1 名）
朝夕延長保育担当教諭				2 名（うち職員 1 名）

⑤教育・保育内容

- 子どもの主体性を大切にした指導計画を作成し、その計画に基づいた保育実践の振り返りと評価、改善の徹底を目指しましたが、話し込みが不十分で、改善まで至らないことがありました。引き続き

き PDCA サイクルを必ず行い、アクティブラーニングを取り入れていきます。

- 乳児クラスでは、保育者との愛着や信頼関係の形成を大切にしながら、毎朝の「じゃれっこ遊び」を継続して行いました。子どもと関わるのが苦手な保育者も、園長や主幹保育教諭、先輩保育者と一緒に「じゃれっこ遊び」を楽しむことで、少しずつ子ども達と関わるできるようになり、子ども達との愛着関係が深まりました。
- 朝の「意味ある運動」や坂道ダッシュ、安田式遊具を使った運動遊び、リトミック、フットサルなどを目的、目標を持って十分に楽しみました。しかし、結果として分かりやすい認知能力の面ばかりに視点をあてた活動になってしまったので、今後は非認知能力を伸ばすための関わりをしっかりと考え、実践していきます。
- めだかアイデアマラソンや石井式漢字教育、キッズイングリッシュなど特色ある保育を楽しむことで、物事に取り組む意欲や集中力に繋げることができました。保護者の方にも子ども達の変化や成長を実感していただき、取り組みの成果を感じていただくことができました。
- 造形活動の取り組みを始めたことで、子ども達の描く絵が大きく変わりました。表現することを楽しみ、一人ひとり違った絵を描くことができるようになったり、ダイナミックな表現ができるようになりました。同時に造形活動を通して、子ども達だけではなく保育者自身が楽しめたり、子どもの変化を肌で感じたことで保育者側の意欲、学びにも繋がりました。
- 今年度も、食育指導や菜園活動、クッキングを楽しむことで、食べる意欲と興味の高まりを促すことができました。しかし、それらの活動1つ1つを楽しむことはできたのですが、活動の繋がりを意識することが弱かったと感じます。次年度は単発の活動だけではなく、年間の保育の中でそれぞれの繋がりを意識した活動を行っていきます。
- 「豊中市人権保育基本方針」に基づき、人権教育・保育を進めました。
非認知能力の部分の育ちは、目に見えにくい部分なので成長を感じる事が難しく取り組みも手探りになりました。しかし、これからは非認知能力を伸ばすためにはどのようなことが必要なのかを学び、知識を増やしていきたいと思えます。

⑥家庭との連携

- クラス懇談会や個人懇談（各年2回）、就学前個人懇談、保育参観、保育参加（各年1回）を行いました。今年度より、年齢ごとにクラス懇談会を別の日に行ったため、兄弟のいる保護者が参加しやすく、クラス懇談会の参加数が増加しました。
各年齢8割以上の保護者が参加してくださいました。
- ドキュメンテーションを使って、日々の保育を保護者の方に伝えてきましたが、内容が観察文のようになっており、ねらいに添った内容が書けていないことがありました。保育者間でドキュメンテーションについて学び、内容の見直しを行っていきます。
- 「早寝・早起き・あさごはん」の大切さを、おたよりやクラス懇談会を通して保護者に伝え、保護者と共に子どもの生活リズムの改善に取り組みました。朝ごはんを食べて登園することは習慣付いてきていますが、寝る時間が遅い家庭が多く、保護者自身も問題意識を持たないケースが多いことが分かりました。次年度も引き続き、就寝時間について考え課題として取り組みます。
- 行事の後には行事アンケートをとり、保護者の意見を拾い上げました。改善点などがある場合は迅

速に対応し、内容はおたよりなどで保護者へフィードバックしたことで、大きな苦情に繋がることはありませんでした。

- 園長、主幹保育教諭が窓口責任者となり、転園、卒園後の相談窓口を開設していましたが、今年度は利用がありませんでした。

⑦人材育成

- 法人研修や園内外の研修などに積極的に参加することで、保育教諭としての専門性を高める機会となりました。また、その後の職員会議では研修に参加した保育者が研修報告を行い、保育者間で研修内容を共通理解しました。研修報告をすることで、再度研修での学びを振り返ることができました。
- 年度当初の園内職員研修において、白鳩会保育メソッド「1日の流れ」を用いて、きめ細やかな丁寧な教育・保育について学びました。その後は園長、主幹保育教諭が日々現場を確認し指導を行いながら保育を進めました。
- 今年度より造形活動の専任講師に来ていただき、幼児クラスの職員を中心とした、絵画や造形についての指導を始めました。様々な技法を学びながら表現する力と感性を養うことができ、造形が苦手な職員も少しずつ苦手意識を克服してきています。
- 地域貢献支援員（スマイルサポーター）養成研修を1名受講しました。
- 自己評価と、チェックシートを使った教育、保育の振り返りを基に、個々の課題について考え教育・保育の質の向上に結びました。

⑧地域の実態に対応した事業

1. 地域子育て支援事業

- 地域担当保育教諭と看護師が中心となり、親子サークル“いちごぐみ”（年11回）を実施し、遊びの提供や交流の場作りを行いました。今年度は10組の親子に参加していただきました。また、主幹保育教諭、地域貢献支援員（スマイルサポーター）が2件の育児相談に対応しました。
- 近隣の親子が安心して遊べる地域の憩いの場として、「みなみおかであそぼう」（47組参加）や園庭開放（延べ65組の親子）、プール開放（3回実施・延べ25組の親子）を実施しました。
- 在宅親子や地域家庭保育所へ園行事（運動会、芋煮会、クリスマス会など）の参加を呼び掛け、園の掲示板やホームページで発信しました。また、豊中市ホームページ内「子どもイベントスケジュール」でも、各イベントについての情報発信を行い参加の呼び掛けをしました。イベントに参加した方の口コミで、園見学に来られる方が増えました。
- 校区福祉委員会主催の子育てサロン“ももちゃん”の出張保育（年3回）に出向き、地域の民生児童委員の方と一緒に活動を行いました。
- 授乳やオムツ交換が可能なスペースを設置し、乳幼児の遊び場を提供できる施設として、豊中市「赤ちゃんの駅」の登録を行いました。

2. その他の事業

- 小学校との円滑な接続のため、保幼小連絡会を行いました。年2回の会議では、夏期には保幼小合同研修会を行い、教職員が共に学ぶ中で情報の共有をし、各校区別に情報交換などを行いました。保幼小の教職員が情報交換をする中で、就学に向けてのスタートカリキュラムについて話し合う機会を持つことができました。
- 5歳児は就学先の小学校へ出掛け、1年生との交流を行いました。校内見学や授業への参加を体験することで、小学校への期待を高めることができました。
- 地域中学校の職業体験（2校）や、保育教諭養成校の実習受け入れ（4名）を積極的に行い、行政や養成校との連携を深めました。また、インターンシップ、ボランティア（2名）の受け入れも行いました。
- 地域福祉ネットワークや小学校区連絡会に参加し、北東部の福祉に携わる施設や団体、また民生児童委員と連携を取り、地域の子育てについて情報交換を行いました。

⑨苦情処理

- 第三者委員2名を設置し、その内容を事務所前への掲示や、おたよりなどで保護者に周知徹底しました。
- 「意見箱」にいただいた意見、要望には概ね24時間以内に対応し、掲示板へ回答書を貼り出しました。今年度は、駐車場の使い方について匿名で1件のご意見をいただき、すぐに対応を行いました。
- 保護者からの苦情や意見は真摯に受け止め、「園内における問題点（苦情処理）事例と経過」にまとめた上で、全職員で共通認識し迅速な対応を行いました。

⑩リスクマネジメント

- 危機管理委員会を組織し、定期的な話し合いを進めながら、チェックリスト作りなど事故防止のための取り組みを行いました。特にプール遊び時の危機管理に関わる内容の話し合いを重ね、事故を起こさないようにしました。
- ヒヤリハットの取り組みを行いました。同じ内容のヒヤリハットが何度もあがってくるなど改善ができていないことがわかり、取り組みについての見直しが必要だと感じました。もう一度ヒヤリハットの意味を確認し合い、意味のある取り組みとなるようにしていきます。
- 防災マニュアルについては全職員に周知し、マニュアルの見直しと確認を行いました。また防災備品（食品・医薬品・毛布など）について確認を行い、期限が切れるものについてはおやつで使用しました。また、今年度は地震や台風を経験したことで、防災備品の見直しを改めて行い、必要なもの買い足し保管場所についても再検討しました。
- 災害発生時は、モバイルメール配信システムを使い保護者と連携を図りました。また、緊急時の連絡カード、災害時の園児引渡し票などを整備しました。
- 看護師が中心となり、感染症や嘔吐処理の方法、SIDS対応、AEDの使い方などについて職員会議の場で学習し、実際の保育現場で一人でも動くことができるように確認を行いました。

- 今年度は、猛暑のため熱中症対策が急務となりました。看護師が中心となり、熱中症対策のマニュアル作りを進め、全職員で読み合わせを行いました。
- 食中毒やアレルギーマニュアルを職員間で確認し、食物アレルギーによる発作が起こった時の緊急薬（エピペン）の保管場所や使用方法についても職員間で共通認識しました。今年度はエピペンを使用することはありませんでした。
- 消防署、警察と連携しながら、総合避難訓練や救命救急講習、交通安全指導、不審者対応講習を行い、緊急時に迅速に対応することができるように全職員で学びました。